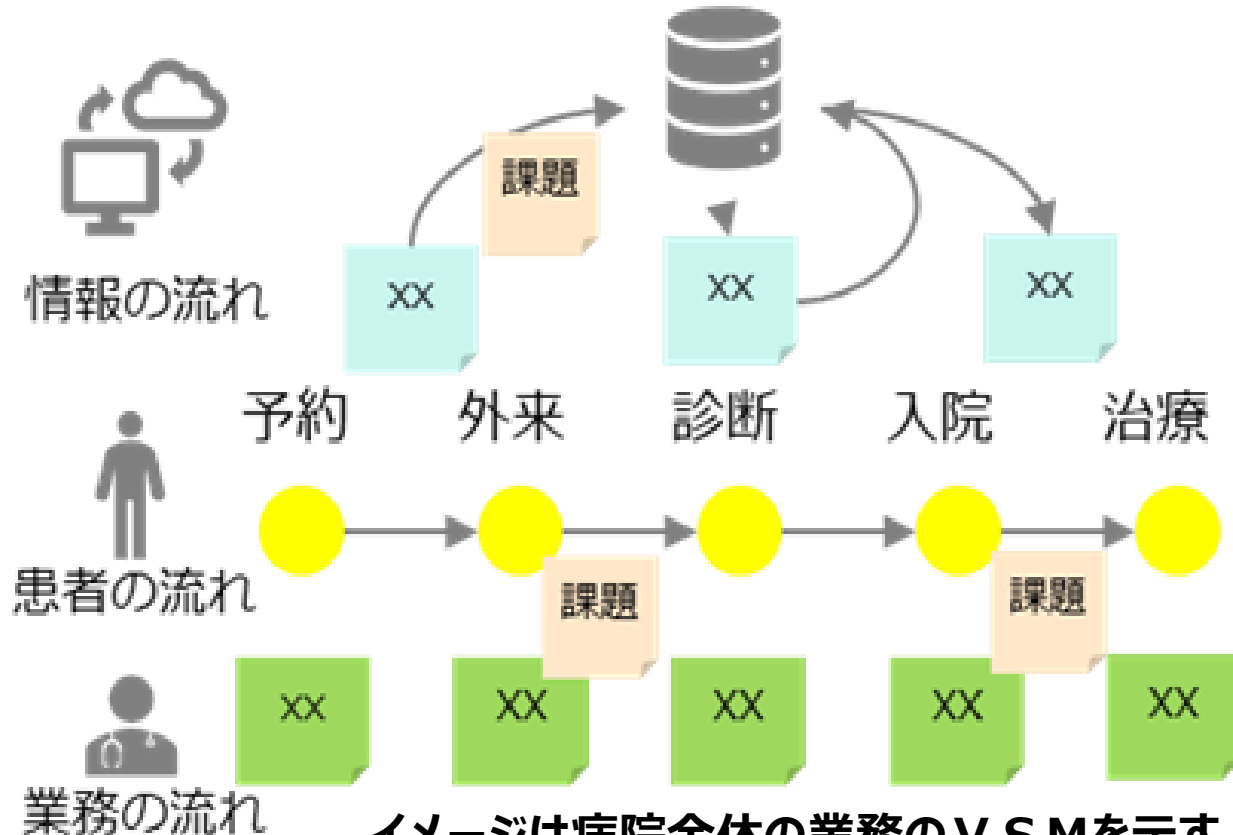


別紙① Value Stream Mapの考え方

当院が目指す姿を念頭に、部門別にVSMの手法を活用し、一連の患者、職員、情報の流れに基づく現状の問題点と解決策を特定し、関係者間での合意形成を図ります。また、MAPを活用し、組織間連携の促進・調整による運用改善、運用マニュアル策定、設備デザインの検討など、様々な用途に応用して活用することが可能です。

現状の患者・業務・情報の流れを俯瞰し課題を抽出

あるべき姿と実現のための解決策を合意



あるべき姿

- 医療アウトカム
- 患者体験
- 職員の体験
- 病院経営

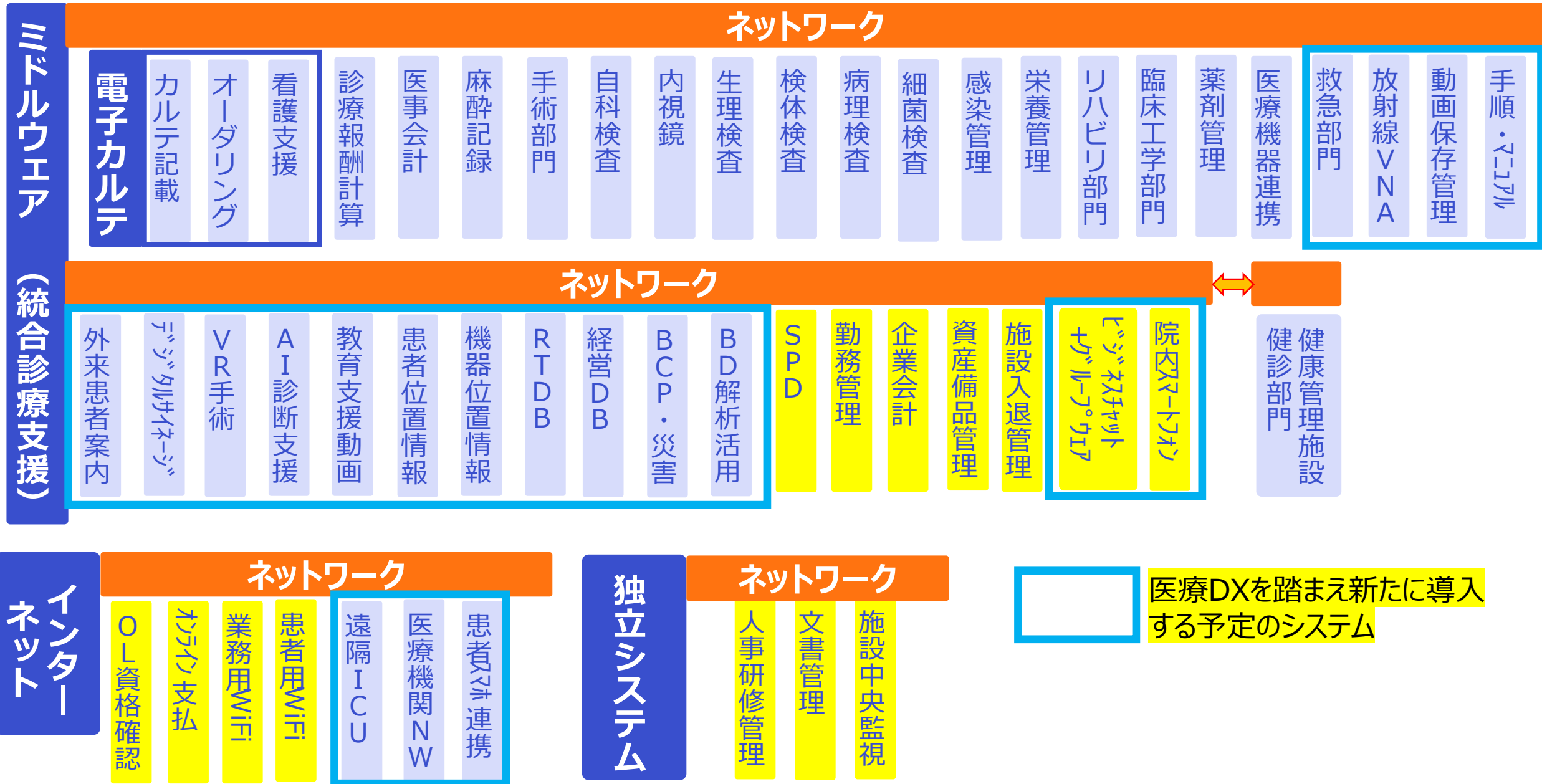
解決策の種類

- オペレーション改革
- プロセスのリデザイン
- 設備デザインの修正
- テクノロジーの活用



イメージは病院全体の業務のVSMを示す
本業務で作成するVSMは部門別に作成すること

別紙② 新病院の医療情報システムイメージ



別紙③ 新病院の医療情報システム検討における課題

①両病院の既存電子カルテデータの円滑な移行（円滑な移行・両病院データマージ・標準化）

異なる電子カルテベンダーの診療情報並びに部門システムのデータなど、移行に向けた調整には今までの蓄積されたデータへの深い見識が必要 また情報の標準化に着手(モダリティ領域でのVNA カルテのHL7FHIR)

②サイバー攻撃を想定した情報セキュリティの検討（セキュリティポリシー統一・リスク可視化）

他施設との医療連携や患者への情報提供、更にはオンラインでの資格確認等、今後インターネットへの接続機会が増加する可能性が高まる中、病院の医療情報システム全体のセキュリティ全般的に見直し、ハードウェア・ソフトウェア両面からリスクの可視化と対策の検討が必要

③ミドルウェアを活用したタスクシフトモデルの構築（働き方改革・医療デジタルツイン・分かりやすい患者説明）

ミドルウェアを活用し、患者・看護師・医師・医師事務補助者・MEなどコメディカルへの専用画面を作成し、部門別の運用フローを最適化することで働き方改革とタスクシフトに対応する必要性がある。同時に患者満足度の向上も目指す情報の集約化による医療デジタルツインの実現で治療方針の決定の迅速化や診断精度向上に向けた検討を行う

④ビッグデータのさらなる活用の検討（医療安全・経営効率化・臨床研究・AI・医療者教育コンテンツ）

トレーサビリティの範囲を広げ、医療安全はじめ様々な用途で活用できるよう、ミドルウェアでの専用システムの導入を検討 RTDB(リアルタイムデータベース)や経営DB(経営データベース)、BD(ビッグデータ)解析活用などを利用して、学会発表など医師・看護師・コメディカルの臨床研究・教育コンテンツへの利用、AI診断支援へのデータ提供など様々な活用方法への対応検討

⑤患者への積極的な情報提供（患者満足度向上→ 外来患者・入院患者・患者家族）

デジタルサイネージの導入を含め外来患者への情報提供を強化する。診察券の電子化や予約の電子化スマートフォンを活用し、外来診察状況・待ち時間等のリアルタイム表示をアプリで実現する。